



明治大学校友会  
福岡支部だより

明治大学校友会福岡市支部事務局

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4-1-2

セントラルホテルフクオカ内

TEL 092-712-1212

# 風のふくおか

24号

2009年7月



ゲストに「女性合唱団コール・エスポワール」を  
迎えての明治大学マンドリン倶楽部福岡演奏会

平成21年3月23日







桜の満開を早々に迎えた平成21年3月23日（月）、福岡市民会館で3年ぶりのマンドリン演奏会が開かれました。20年ぶりの帰郷を機に校友会へ入会した私も平成会の当日スタッフとして初参加しました。朝から、初の紫紺のハッピにテンションがあがるのを隠しつつ・・・運営委員の大先輩達と共に今日の主役：学生達のお出迎え。元気いっぱいの子供達の声を楽しんで思うも、部

員は少ない気がして少し寂しい？

しかし、今年は初の試み、人気女性合唱団コール・エスポワールの皆さんとのコラボレーションも楽しめると思って、期待は高まります。開場前には福岡での開催を心待ちにして駆けつけてくださったお客様の長蛇の列。この姿、学生達に見せてあげたい・・・

演奏会は3部構成。第1部の古典音楽に続いては、おまちなかの合唱団とのコラボの第2部。亜麻色の髪の子供達をはじめとする馴染みのある曲目が続く。当日リハーサルのみで行われたものとは思えない、お互いの魅力を存分に引き出された息のあったステージ！と盛り上がったところで古賀メロディーに始まる第3部へ突入。やはり最後はマンドリンの音色を最大限に聴かせる曲目で会場を大満足させてくれました。

近年女性部員も増えつつあるというマンドリン倶楽部ですが、今回軽妙な会話をはさみつつテンポよい司会を披露してくれた部員の女の子。また新たなマンドリン倶楽部の魅力にも出会えた気がします。また次回の福岡での演奏会が今から楽しみです。

(H4経営卒 中村 徳子)



内田総務委員長のもと、今日一日のスケジュールチェック



学生、エスポワール司会者との入念な打合せ



スタッフも集まってきました



開場前には、もうこんなにお客様が並びました



さあ、入場です





実行委員長の古賀支部長のあいさつ



会場は割れんばかりの大拍手



古賀メロディーの演奏になると会場では音楽にあわせて、手を動かしたり、ハミングしたりする風景が随所に見られ、古賀メロディーの根強さがうかがえます。



CDコーナーも盛況でした



反省会での上杉運営委員長のあいさつ



学生指揮者で主将の荒川君はエスポワールのお姉様方(?)にモテモテ



## 平成21年度 福岡県支部総会



平成21年度の福岡県支部の総会が5月30日 セントラルホテルフクオカにて行われました。総会はまず、この1年間に亡くなられた校友への黙祷から始まり、昨年県支部長に就任された絹笠支部長が挨拶されました。議事に進み事業報告、計画及び会計報告、監査報告そして予算案報告と進み、最後に会則の変更の承認があり終了しました。そして、絹笠支部長が「現在の激動の中、校友会活動に参加する事が、不況脱出の鍵だ！」と高らかに挨拶をされ、前代未聞の337拍子ならぬ3、3、3、1拍の手締めて議事を終了しました。

続いて来賓の挨拶があり、大学から総務担当の清水秀夫常勤理事が大学の近況について話をされました。明治大学への受験生が3年連続で10万人を突破していて、早稲田大学に次いで2番目だという事。再来年の2011年に130周年を向かえるので、それに向けての記念行事の検討に入っている事。明治大学は教育には強いが、研究分野や語学に弱いので、この辺りの打破に力を注いでいる事。司法試験合格



景品に一喜一憂

者が86名、公認会計士合格者が116名と年々増えているが、今後国家公務員対策にも力を入れていく事など話されました。

続いて、校友会から副会長の園田英次氏が、教育振興基金の集まり状況からかんがみて、活発な活動や事業をしている支部が早く目標を突破していると話されました。そして次の2つの提案をされました。1つは近隣支部の支部長会をつくり何か事業をしてみる事、2つ目は女性会員を増やす事。

総会終了後、懇親会に移りました。今年も韓国支部から朴支部長、金副支部長、厳幹事長ご夫妻が、また台湾支部から周 駐福岡経済文化弁事所長がご出席され、それぞれ挨拶されました。会場は年代毎のテーブルで、県下各地域支部から参加した校友が久しぶりの再会を祝し、グラスを傾けていました。アトラクションとして、前回好評だった「むかでゲーム」を行い、景品めざしたジャンケンに一喜一憂し歓声を上げて賑わいました。



元気のいい新人校友

## 第45回 明治大学全国校友富山大会へのお誘い



平成21年度の明治大学全国校友大会が富山県で、右記ポスターのように9月27日富山県民会館大ホールで行われます。

～富山は北アルプス剣岳に代表される三千メートル級の山々を背に、立山・黒部の雄大な自然に恵まれ、清らかな雪解け水は急峻な川を下り、平野を潤して全国屈指のうまい米をもたらし、さらには深く切れ込んだ富山湾へと注ぎ、寒ブリなど、四季折々多くの海の幸を提供してくれます。～(富山大会パンフレットより抜粋)

**みんなで富山に行きましょう!**





### 第三回 明大校友会台湾支部総会回想録

今年度の台湾同窓会は、周総領事の御指導やアドバースをもとに、前平成会会長の高野礼子校友（旅行会社勤務）が初めて企画しました。その旅行記を初参加の大牟田支部の西山校友に寄稿してもらいました。

私にとっては初めての台湾であり、海外支部総会へのデビューでもあった。「台湾」の印象は何より昭和期を思わせる風情である。市中は漢字だらけだが韓国のハングル文字と違って違和感がなく、妙に安心できる。とにかく観光に出かけてもいたるところで懐かしい風景に出会える。外国を感じさせない好感の持てる国であった。

回想録は支部総会が中心である——観光日程は文末に整理した。（周先輩の温かいご配慮がうれしい行程でした。）



今回は絹笠先輩を団長に総勢13名が参加、結団式より小心者の私はすっかり緊張感に支配されていたが上杉先輩の一言に救われた。「飛行機の中はワインに限るね。」——実に5回の「May I?」で入国時はすっかりほろ酔い気分の、こうなるともう怖いものなしでその余勢のままにいざ会場への初見参。

会場中心のひな壇は赤を基調に両脇に「紫紺の旗」を揃え実に重厚な趣であった。席の配置にも台湾校友と交流できるよう工夫があり、和みやすさを感じる。そうした雰囲気の中で支部総会はつつがなく進行していった。日本語中心のそれも有難かった。やがて総会が終了するといよいよメインの懇親会だ。何より納谷学長と今年96歳になられるという青木全国校友会会長と同じ空間に居るという環境が貴重なるモノ、しかしその一時に浸っている暇はない。親日家ばかりでしかも人懐っこい台湾支部校友は次から次へと「乾杯」の連続をせがみ、料理を楽しむ間すらも与えない。しかし、本場で飲む「紹興酒」は

ホントウに格別で贅沢な時間だけが流れていった。カラオケは止まる事を知らず大いに盛り上がったのであ



る。そしていよいよクライマックス—校歌斉唱。上杉先輩がエールをきる。異国の地で異国の校友とスクラムを組んで声高らかに「おお明治」——きっとそれぞれの胸中に去来していたものは、同じ時代または同じ場所を共有し心の拠り所にしてきた母校への想い、またそれぞれの青春期だったろう。感動と感激でつい感涙していた。

海外支部への参加は日頃の環境から離れて、自らを「素」に出来る数日間であろう。「校友」という一括りの



下で何の利害関係もなく無防備で無垢になっている自分自身を見つけることが可能なのだ。諸先輩の人生に触れる事も出来るし、とにかくいいものだ。日常に追われる日々から脱却し、忘れかけた自分の原点に立ち戻れる。来年の新しい先輩また後輩諸君との出会いを心待ちにしている自分がいる。

最後に毎夜宿舎にて個人的な酒宴にて校友を深めていただいた矢谷先輩またお世話係の高野校友に感謝、導いていただいた古賀先輩に感謝、ハットの似合う勢先輩、遠方からの菊池先輩に感謝、ほかのすばらしき諸先輩、校友に感謝。そしてもちろん台湾支部校友の皆さんに感謝、再見！

大牟田地域支部 幹事（S51商卒 西山 孝二）



4月18日	台北	福岡出発 11:25台北着 台北市内観光 アンバサダーホテルにて台湾支部総会参加
4月19日	嘉義	台北より台湾新幹線で嘉義へ。烏山頭ダム見学（日本人技師 八田興一が築く）。關子嶺温泉泊
4月20日	台南	台南市内観光。オランダ統治下に建てられた赤崁楼見学 オランダから解放した英雄鄭成功を祀る延平軍王祠見学
4月21日	台北	台北總統府見学 台北空港から福岡空港へ



## 韓国支部同窓会に参加して

6月6日から3日間、7年ぶりに韓国同窓会に参加してきました。東京より近いソウルには約1時間半で着き、昼食に“土俗村”という名前の店に行き、韓国の有名料理“参鶏湯（サムゲタン）”を賞味しました。ここは参鶏湯で有名な店らしく、午後2時過ぎにもかかわらず40人近くの人が並んで待っているほどの店でした。確かにすばらしい味に皆さん満足げでした。ソウルの町並みには花が飾ってあり、明るい雰囲気が感じられましたが、李明博大統領になってこういったところにも力を入れているとの事です。



「サムゲタン」で有名な店

さて、韓国同窓会は午後5時よりロッテホテルの32階で行われました。総会は朴元錫会長が歓迎の挨拶のあと韓国校友会活動の近況などを話され、今後青壮年部とのコミュニケーションをはかり、奮起を促したい旨話されました。韓国もやはり景気の低迷で厳しいのでしょうか若い人達の参加者がやや少ないのが気になりました。来賓挨拶では橋口財務担当常勤理事が、大学の財務状況（どこかの大学のように何百億という投資評価損もなく約2億円の黒字である）を話されました。続いて全国校友会の代表として絹笠副会長が中国、韓国は日本の文化の上では親や兄のような存在と述べられ、これからの一層の交



カルビの里での記念写真

流を希望された後、最後に上杉先輩が急遽、団長としての挨拶をされ校歌を斉唱して懇親会に入りました。（こちらでは始める前に校歌斉唱です）

懇親会では久しぶりの方々と杯を酌み交わしました。宴もたけなわになりカラオケでは小倉の三郎丸先輩がハングル語で韓国の唄を歌い、韓国の金振守校友が圧倒されるような表現力で唄を歌い、皆さんから割れんばかりの拍手を浴びていました。総会終了後、韓国支部の幹事の方と場所を変えて飲みました。

翌日は温泉とカルビで有名な一東（イルトン）に行きました。温泉は日本の温泉とは趣が違い、どちらかと言うと健康ランド的な明るい雰囲気の温泉でしたが、韓国のお風呂場は着替える所にタオルが無く（風呂場にはあったが）、離れている浴場まで全くの手ぶらです……。素っ裸で歩くのはすこし勇気が必要でした！



それからカルビです。一人に二人前の量で次から次ぎに出てくる味付きカルビに皆さん満足されていました。しかし、山の中腹にあるここ一東は実は北朝鮮に近く、山向こうはもう北朝鮮なのです。道中のバスの中からは有刺鉄線も見え、複雑な心境でした。

その夜は厳幹事長が私達一行をスイスグランドホテルのディナーに招待してくださいました。朴会長や金副会長も一緒でしたが、厳幹事長の友人で「冬のソナタ」のペ・ヨンジュンの劇中の事務所のデザインを手がけたデザイナーで会社社長の孫さんや通信会社社長の高さんも同席されワインでの乾杯を重ねました。因みにこの孫さんから後日私達に「冬のソナタ」の劇中の事務所でのペ・ヨンジュンの写真が送られてきて、女性陣は喜びの声をあげていました。

6月8日。最後の日は、まず22年前に初めて韓国同窓会に出席した時に訪問した世界遺産の“宗廟”を見学。ここは朝鮮王朝歴代の王と王妃の位牌が





左より藤幹理事長、孫さん、高さん、朴会長を前に挨拶される絹立副会長

祀っており、市民の散策の場にもなっている所です。それから冬のソナタの主人公達が通った学校や家があるソウルの韓屋村の町並みを散策しました。なるほど韓国らしい風情が漂う住宅街を散策し、ここがあの坂道、ここがチェ・ジウの家の階段！と女性陣は大喜び、男性陣も写真撮影に余念がありませんでした。

今回は新型インフルエンザの世界的な流行で参加者の人数が危ぶまれましたが、今年で22回目となる韓国と福岡支部の交流の糸を切ってはならじと命知らずの(?) 18人が集まり行ってきました。幸い、帰国後3週間になりますが、どなたも異常は無いようですので大丈夫だったのでしょう。また昨年来の大不況の中、韓国経済も打撃を受けて、ウォンのレートも下がっていて、100円=1260ウォンぐらいでした。(3月頃は100円=1600ウォン位だったとの事) 韓国旅行社のガイドさんも「お土産をいっ

はい買って行ってください、韓国をよろしく願います。」とアナウンスしていたのが印象的でした。

今回は大学や校友会本部以外にも富山から松原支部長、埼玉の小川地域支部長、大阪支部の菊池先輩や釜山大学で客員教授として日本語を教えておられる福岡支部の葉照子さんらも合流しました。

また県内支部から小倉の勢支部長や三郎丸、村田の両先輩、飯塚の福澤先輩、大牟田の古賀支部長や西山先輩などとも交流を深める事ができ、観光以外でのこういうふれあいも旅行の醍醐味だなと振り返っているところです。

また、第1回からずっと福岡支部の韓国同窓会参加旅行をお世話されている上月先輩に改めて感謝いたします。

編一本田 博志



「宗廟」での語らい





## 西の会

さる5月1日に早良区にある千石の郷にて第3回西の会を開催いたしました。晴天の下、色とりどりのつつじを堪能しつつ、ひとときの宴に舌鼓を打ちました。当日は会議にもかかわらずタクシーを飛ばされて古賀支部長にお越しいただきました。古賀支部長におかれましては、日頃お話される事のない若か

りし頃の数々の武勇伝を伺う事ができ、笑いとお話で宴は幸せのひとつときになりました。このたびの西の会にご尽力いただきました井手会長に感謝申し上げます。

(S60政経卒 赤壁幸哉)

## 九州明柔会に参加して

去る4月4日、市内の「割烹 稚加栄」において九州明柔会（明治大学柔道部OB会）が開催された。この店の専務で明大柔道部OBの田原聖也氏の司会で始まった。最初に九州明柔会会長の神永正夫先輩より「上村春樹氏の全柔連会長並びに、講道館館長就任に次いで、わが明治大学柔道部が7年ぶりに全日本学生体重別選手権大会で優勝の快挙を成し遂げた」との報告があった。



次いで古賀愛人明柔会最高顧問（福岡市地域支部長）が「GHQの通達により柔剣道が禁止されていた戦後間もない頃、明大柔道部の復活を遂げるべく同士とGHQに直談判をした結果、早慶や他の大学に先駆けていち早く柔道クラブとして活動を許された」との懐旧談を披露された。

さらに全国明柔会会長の関勝治氏の「体重別選手権大会での優勝やそのご褒美としてグム合宿訓練、さらに全国明柔会支部の活性化、又今年は12名



の新人部員の入部があった」との報告がなされた。続いて福田二郎都柔連会長（明大柔道部OB）は挨拶の中で「明治大学柔道部が日本柔道界を支えてきた。上村氏の全柔連会長並びに講道館館長の就任により更なる発展を望む」との言葉があった。

現在の明治大学柔道部監督の藤原敬生氏からは「体重別選手権優勝に甘えることなく、来る大学選手権大会では必勝を期して望む」として、翌日開催される体重別選手権出場の棟田選手を含むOB、現役選手など10名の紹介があった。

本日の主役、上村春樹新全柔連会長兼講道館館長から「実家（柔道の総本家日本）がしっかりしないと戦えない。日本本来の一本を取る柔道を目指すとともに、柔道を通じての人づくりに全力を尽くす」と言う力強い挨拶があった。この後、細川氏の乾杯により懇親会の宴は和やかに進んだ。途中、参議院議員の吉村剛太郎氏も宴席に加わった。

全国より約40人、福岡市地域支部の校友は周総領事、安永、塩崎両先輩、光安市議員をはじめ約10人、総勢50名の校友が一同に会話しに花を咲かせた。

最後に応援団OBの上杉先輩の音頭により校歌斉唱の後お開きとなった。このような素晴らしい宴席にご案内いただき校友の輪を広げさせていただいた神永会長はじめ関係各位に改めて御礼を申し上げますとともに、明治大学及び明大柔道部の更なる発展をお祈り申し上げます。

(S40法卒 内田紀生)





## 他地域支部の表彰者を紹介します。

### ◆久留米支部 原忠雄氏（昭和36年 政経卒）

地方自治に功労があったということで、旭日双光章を授与されました。

### ◆小倉支部 古森弘一氏

（平成8年 理工学部建築学科卒平成10年理工学研究科博士前期課程修了・修士号取得）

「古森弘一建築設計事務所」代表が、この度「第21回福岡県美しいまちづくり建築賞 大賞」を受賞しました！受賞しました物件は小倉地域支部副支部長の猪ノ口洋逸氏（昭和30年商卒）の依頼により設計した住宅との事です。

「大変名誉ある賞で今後の活動への大きな励みになります。詳しくは URL:www.furumori.netをご覧ください。また、H.P.では善工務店に施工していただいた「博多駅前三丁目」という物件もアップしています、こちら楽しいオフィスビルになりました、併せてご覧ください。」とのコメントです。

おめでとう  
ございます！！



原忠雄氏



古森弘一氏の作品



## 第49回 駿台ゴルフ会コンペ

●●● Topic

去る6月21日に福岡県内各支部から総勢24名の腕自慢が集い第49回駿台ゴルフ会が開催されました。前日ま



での天候がウソのように日光が燦々とふりそそぐなかで気温もかなり上昇しましたが、プレーもそれ以上に白熱した熱い戦いになったようです。

当日は、前回のザ・クラシックゴルフ倶楽部で行なった駿台ゴルフ会と同様に会場の小郡カンツリー倶楽部の感謝デイコンペも開催されておりましたので、そちらにもエントリーして、1ラウンドでダブルのタイトルを懸けてコンペとなりました。

両方ともダブルベリア方式で順位を争いましたが、それぞれに隠しホールを変えて集計してもらったため、どちらの順位発表でも一喜一憂があり、たいへん楽しめた大会となりました。

クラブの感謝デイコンペでは大牟田支部から参加の伊藤泉先輩（S51政経卒）が優勝され、前回の再現のように飛び賞や特別賞も大多数が駿台組の手に渡ることになりました。さすがに明治の先輩方はゴルフの腕前もさることながら強運をお持ちなのだつくづく感心いたしました。

我々にとってメインイベントである駿台ゴルフ会のタイトルは福岡市地域支部から参加の富下雅史先輩（S51法卒）が手中に収められました。

そして、今大会で特筆すべきは驚愕の新人が現れたことでしょうか。あえて名前は伏せますが、当日の早朝、羽田空港を飛び立ってまっすぐゴルフ場に駆けつけ、皮の上下を身に纏ってネクタイを



なそのKさん

締めたままでスタートしていったKさん。（ホールアウト時には半そで半ズボンというラフなスタイルに変身してましたが）なんと両方のアンチタイトルホルダー（敢闘賞）となる離れ業までやってのけました。さらには、東京土産と言いながら多数の明大グッズを提供してくれました。近年まれに見る大型新人です。

なお、次回、第50回駿台ゴルフ会は若松地域支部のお世話で10月8日に福岡国際カントリークラブにて開催いたします。奮ってご参加ください。

（S59工卒 佐野貞和）







戦前の満州で少年時代を過ごされた塩崎先輩に、満州での思い出を寄稿していただきました。戦前に今の新幹線にも匹敵するような機関車を作っていた日本の技術力に改めて感心しました。今でもこれほど熱く語れるほどですから、当時の塩崎少年には強烈な印象だったのでしょ。



さる3月26日で、満で数えても喜寿を迎える事が出来ました。実は最近鬼籍に入る高校時代の同級生が増え始めたので、一人でも多くの者が参加できる喜寿の祝いとを考え、昔流の数え年でやろうと昨秋急遽決まり実現しました。

私は満州生まれで、戦後昭和21年7月母方の長崎県五島に引き上げて参りました。長崎県の片田舎に住んだものの方言が分からぬうえに、当時はよそ者として白い眼で見られ、外地育ちの引揚者グループが出来上がるのは自然の成り行きであり、考え方も共通したものがありません。

高校3年の終わり頃、卒業したらどうするか引揚者グループの仲の良い者が30人程度集まり、話し合いの結果田舎暮らしは面白くない、東京に出ようと話がまとまり、夫々が思い思いに進学校を選び、私は明大を受験する事に決まりました。引揚者グループの殆どが台湾、朝鮮、満州、中国育ちで、大様な考えの者ばかりなので簡単に意見が一致したものと思います。爾来、60年余を経た今では、この仲間も半数近くがこの世を去り、残された者も各地に散らばっておりますが今も交流が続いております。

喜寿を向かえた最近、幼少年時代の鮮烈な思い出



はと考えている中に思いついたのが、小学校4年の夏、当時東洋一と言われ世界に誇っていた旧南満州鉄道株式会社（通称、満鉄）が運転していた、特急「あじあ」号についてです。これに乗車したたった一回の経験がいかによろしかったかを、思い出すままに記してみました。

特急「あじあ」号は、昭和9年11月初めから昭和18年2月末までの8年4ヶ月と云う短期間の運転ではありました。一列車定員280名足らずで、最初は大連、ハルビン間（後に大連・新京）を一日一往復の全列車指定席では切符を手に入れる事は至難な事でもあり、70年近くも前の事であれば、これに乗車した経験のある人で生存している人は数少ないのではないかと思います。

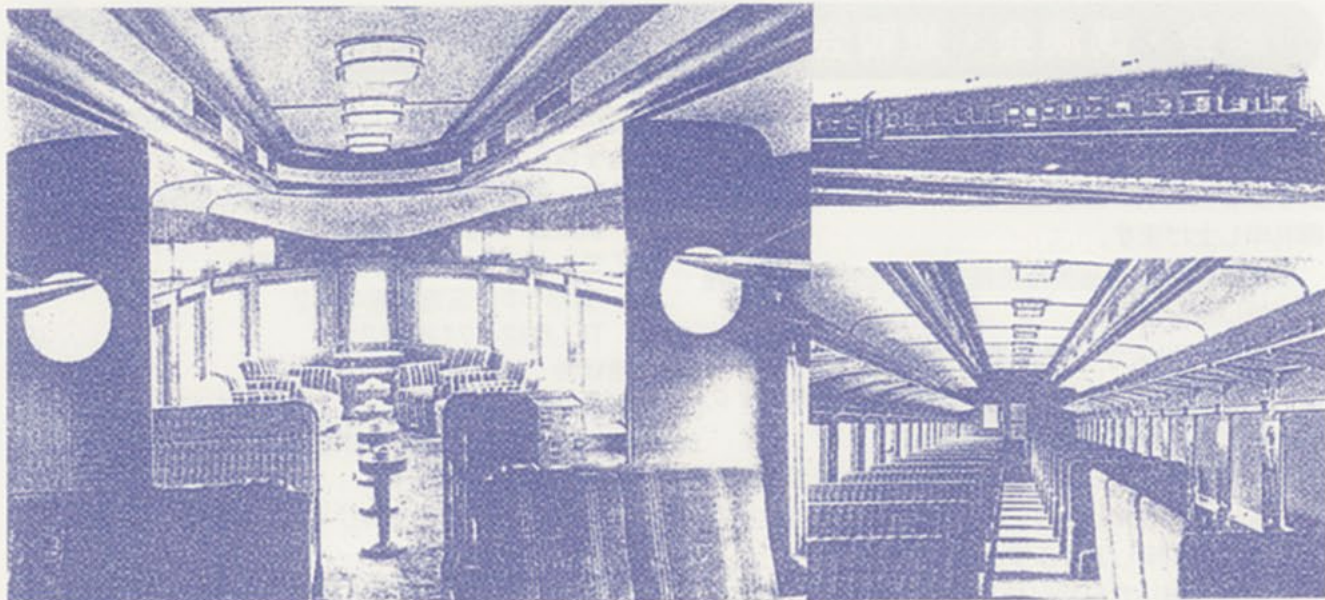


私が乗車したのは、昭和16年小学校4年の真夏、大相撲の満州場所の地方巡業で、当時満州の鉄の都と言われていた鞍山駅より私の住む大石橋駅まで、急行列車でさえ1時間20分ほどかかる距離の区間をわずか40分足らずで走破し、車窓から外を眺めると景色が飛ぶように見え列車の速さを痛感しました。

「あじあ」号の旅客専務車掌は父の部下であったので、父が部下に一言大石橋まで頼むと声をかけると即座にご自由にどこでも結構ですからと……。そこで父が一等の展望車に行こうと言うので、無礼でっけているので子ども心にも私は気が引けてここでいいよと二等車に席を占めました。今になって考えるとなんて展望車に行かなかったかと本当に借しい事をしたと悔やまれてなりません。

下り列車が、始発大連駅を出て最初の停車駅が私の住んでいた大石橋駅、人口3万人足らずの小さな



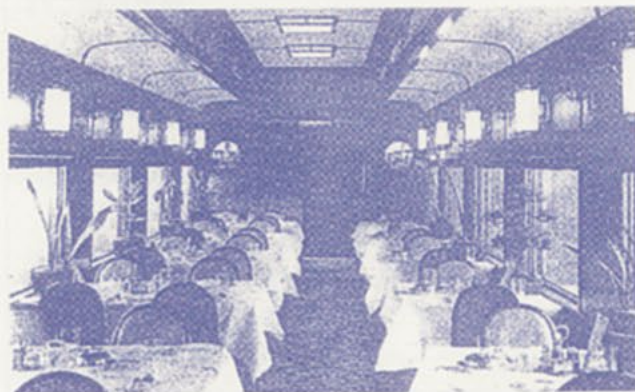


街でしたが、燃料満タンで出発してノンストップで走れるのは3時間半ほどが限度なので、わずか5分間の停車で他に整備その他万端整え1秒の遅れもなく運行させておりました。

私が乗車したのは8月の真夏で、大陸性の気候である満州は、日中35度から40度を越す猛暑の季節ですが、社内は20度ほどの涼しさ肌寒さを感じるほどで、別に扇風機もなく早速父親への質問「何でこんなに涼しいの？」でした。現代では冷房がバスでさえ行き届いているのが当たり前ですが、昭和18年の事です。それが昭和9年に出来上がっていたのです。

発車してからは涼しくて静かな車内で揺れも少なく、その疑問を訪ねると防音、冷房、暖房装置が完備しており、それに客車の全車輛が他の車輛と違って通常は4輪ボギー車だが、これは6輪ボギー車で車輛が8つ多く、徹底して各車輛に注油しているからだとの事、小学4年の私には解かったようなわからないようなもので納得するような顔をするだけでありました。

当時では現代の電車列車で各車輛に動力が付いているものでは画期的なものでした。列車の外觀は、流線型で動輪の直径2メートル、機関車の長さ約26メートル、幅3メートル、重量203トン。動力源の燃料である石炭12トン、水37トンを発車時に満載し、火床（石炭を燃やす釜）が約2坪、人力での給炭では機関車の蒸気が上がりず自動給炭、日本の



SLでは機関助手が手動で給炭していたが、高速で走るこの機関車は人力での給炭では間に合わず、各種計器のチェックが機関助手は精一杯だった由、従って「あじあ」号の機関助手は大変な名誉であったらしい。

また、日本の蒸気機関車と比較すると段違いで、玩具のように見えました。「あじあ」号の機関車の高さは4メートル強で運転室の床まで地上から3メートル弱の所にあり、運転室に入るには当時チビであった私は、抱き上げられてそこから階段をよじ登ったほどでした。

大連を発車してからの停車駅は終点まで4ヶ所しかなく、途中で1回機関車の取替えも行われ、「あじあ」号の通過の状況は幾度も見た事がありますが、山のような大きな列車で時速130キロメートルを越す猛スピードなので砂煙を上げながら走る姿はホームの線路から駅員でさえ5メートル以上後ろに下がって見送る有様、直線の本線をもの凄いスピードで走るの言葉で言い表せない威厳がありました。「あじあ」号の通過する線路の前後30分前列車は皆側線で待機して、定時運行に努力したと聞いております。

「あじあ」号の機関車パシナ型は11輛建造されたのですが、戦後ソ連が戦利品として本国に損取して持ち去り、現在は故障車で残されていた1~2車輛を整備して（もちろん自走はできません）旧満州の鉄道博物館に展示されているという事を聞き及んでおります。

幼少年時代の鮮烈な思い出のこの列車が実際に走る姿を見た人も、昨今高齢化しており非常に少ないと思います。現在の新幹線と比較してスピードを除き、設備に置いては決して劣る事はないと確信しております。

これを読んでくださった方で、車輛の面でもすばらしかったのを知りたい方がいらっしゃれば、私の知る範囲で説明申し上げますので遠慮なく申し下されば幸いに存じます。

(S30文卒 堀崎正臣)



## 総会・講演会・懇親会のご案内

拝啓 盛夏の候、皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、明治大学並びに校友会活動にご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて平成21年度福岡市地域支部の総会を右記の通り開催いたします。

本年は明治大学公開講演会開催年であり、松本 穰商学部教授に「明大箱根駅伝復活への軌跡」のテーマで、ご講演をいただきます

母校の情報を知り、校友諸氏が親睦と交流を深める、よい機会と存じますので、是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

ご案内が届いていない校友がおられれば、お誘い合せの上ご出席をお願いします。

末尾になりましたが校友の皆様の益々のご健勝を心から祈念申し上げます。

敬具

福岡市地域支部総会・明治大学公開講演会

1.平成21年9月12日(土)  
総会 13時30分～14時30分(予定)  
講演会 15時～(無料)

2.セントラルホテルフクオカ1B  
福岡市中央区渡辺通4-1-2  
TEL092-712-121

懇親会

1.平成21年9月12日(土) 17時(予定)～  
2.セントラルホテルフクオカ3Fダイヤモンドホール  
3.会費 3,000円

(但し、女性校友及び平成14年卒以降の校友は2,000円)

\*出欠を同封の返信ハガキにて、8月30日迄に必着でお願い致します。

\*問い合わせ先 福岡市地域支部幹事長  
矢谷 学(昭50法卒)  
TEL 092-631-3336(三栄印刷)

## 平成会

平成会の皆様へ

今年もまたビアガーデンの時期がやってまいりました。ふるってのご参加お待ちしております。

日時 平成21年7月25日(土) 18:00～  
雨天の場合は他の店で決行です  
場所 天神 西日本新聞会館 屋上 天空五風  
092-712-4650  
会費 飲み放題 2時間 3,300円(前売り)  
予約名 明治大学 女賀

ご参加いただける方は  
090-4838-1694 女賀 携帯まで



皆様、暑中お見舞い申し上げます。支部だより「風のふくおか」第24号をお届けいたします。今回は女性合唱団コール・エスポワールの賛助出演を得てのマンドリン倶楽部演奏会を中心に取り上げました。演奏会では多くの皆様にご協力いただき成功裡に終わる事が出来ました。ビッグイベントをやり遂げる事は、いろいろと面倒な事も多いですが、多くの校友と力を合わせてやり遂げた達成感、充実感は何となく得たいものですね。こういった時に思い出されるのは、以前県の連合支部長だった緒方豊吉先輩の言葉です。先輩は常々「校友会活動においては、力(体力)があるものは力を、時間があるものは時間を、金があるものは金を」とユーモアを交えながら話されて

いました。あー、そういうことが校友会活動なんだな、いま自分に出来る事で協力していくことが校友会活動なんだなと納得したものでした。

さて、いよいよ本格的な夏です。体に気をつけて夏を過ごしましょう。

編集委員一同

編集委員長 本田 博志(昭52法)  
委員 佐野 貞和(昭59工)  
" 三井 成隆(平4商)  
" 今井 葉子(平4営)  
" 石迫 弘久(平8文)  
校友会事務局 矢谷 学(昭50法)  
" 高野 礼子(平元法)